



# 平成26年7月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年3月14日

上場会社名 株式会社エイチーム

上場取引所 東

コード番号 3662 URL <http://www.a-tm.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 林 高生

問合せ先責任者 (役職名) 社長室長 (氏名) 光岡 昭典

TEL 052-527-3091

四半期報告書提出予定日 平成26年3月14日

配当支払開始予定日

平成26年4月4日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成26年7月期第2四半期の連結業績(平成25年8月1日～平成26年1月31日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年7月期第2四半期	5,790	—	480	—	492	—	266	—
25年7月期第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 26年7月期第2四半期 258百万円 (—%) 25年7月期第2四半期 1百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年7月期第2四半期	27.74	27.24
25年7月期第2四半期	—	—

(注) 当社は平成25年7月期第3四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成25年7月期第2四半期の数値及び対前年同四半期増減率については記載しておりません。

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年7月期第2四半期	4,838	3,704	75.8
25年7月期	4,641	3,505	75.4

(参考) 自己資本 26年7月期第2四半期 3,667百万円 25年7月期 3,500百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年7月期	—	11.22	—	10.00	21.22
26年7月期	—	10.00	—	—	—
26年7月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

第2四半期末配当金の内訳 25年7月期 特別配当 10円00銭 記念配当 1円22銭

平成26年7月期の期末配当予想につきましては、現在未定です。

## 3. 平成26年7月期の連結業績予想(平成25年8月1日～平成26年7月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,500	13.7	1,500	△12.6	1,500	△12.7	883	△15.2	91.79

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年7月期2Q	9,623,600 株	25年7月期	9,597,500 株
② 期末自己株式数	26年7月期2Q	— 株	25年7月期	— 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年7月期2Q	9,602,188 株	25年7月期2Q	— 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 当社は平成25年7月期第3四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成25年7月期第2四半期の数値については記載しておりません。
2. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)4ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○目 次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	6
当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	6
3. 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10
(6) セグメント情報等	10
(7) 重要な後発事象	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

国内のインターネットを取り巻く市場につきましては、インターネットの利用者数は平成24年末時点で9,652万人（前年同期比42万人増）に達しており、継続的に拡大を続けております（総務省「通信利用動向調査」平成25年6月発表）。

モバイルビジネスを取り巻く環境につきましては、従来型携帯電話からスマートフォンへの移行が急速に進んでおり、平成26年1月末時点で携帯電話契約数は1億3,713万件（前年同月比5.8%増）（社団法人電気通信事業者協会発表）。平成25年12月末のスマートフォン契約数は5,328万件、端末契約数の44.5%まで拡大しました（MM総研「スマートフォン市場規模の推移・予測」平成26年1月発表）。

このような状況の下、エンターテインメント事業では日本国内市場とともに、海外市場をターゲットにしたスマートフォンアプリに積極的に取り組み、既存タイトルの品質向上に努めるとともに、グローバル市場向けの多言語展開を推進してまいりました。

一方、ライフスタイルサポート事業では、消費税増税前の駆け込み需要を背景とする新車販売台数の拡大に伴う中古車買取需要増加及び引越し繁忙期到来に対応し、既存サービスのSEO（注）及びプロモーションの強化、そしてユーザビリティやカスタマーサポートの品質向上に注力いたしました。さらに、引き続き各サービスの周辺サービスも拡充しつつ、サービスの最大化に向けて取り組んでまいりました。また、新たな事業領域における新規サービス開拓に取り組み、キャッシング・カードローン総合検索サイト「ナビナビキャッシング」と自転車通販サイト「cyma-サイマ-」を開始いたしました。

（注）SEOとは、「Search Engine Optimization」の略で、検索エンジンの検索結果として上位表示されやすいようにサイトを最適化することです。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は5,790,501千円、営業利益は480,569千円、経常利益は492,354千円、四半期純利益は266,391千円となりました。

なお、当第2四半期連結累計期間におけるセグメント別の業績は以下のとおりであります。

#### <エンターテインメント事業>

エンターテインメント事業では、スマートフォンアプリの企画・開発・運営、グリー株式会社との協業によるソーシャルゲームの運営、及び従来型携帯電話向け公式サイトでの運営を行っております。

スマートフォンアプリにつきましては、主力タイトルの「ダークサマナー」がリリースから2年経過し減収傾向にあるものの、継続して月商1億円規模で堅調に推移いたしました。また、平成25年8月にApp Storeで日本語版と英語版、平成25年10月にGoogle Playで日本語版と英語版を同時リリースしたリアルタイムバトルRPG「レギオンウォー」が四半期を通して売上に寄与したほか、平成25年5月にリリースし、翌月の6月に課金を開始したスマートフォン向け本格3D競走馬育成ゲーム「ダービーインパクト」が継続して堅調に推移いたしました。平成22年にApp Store、平成23年にGoogle Playでリリースした本格3D麻雀ゲーム「麻雀 雷神 -Rising-」は新モードとなる「北斗の拳～世紀末覇者麻雀バトル～」を実装したことにより、売上・利益の拡大に寄与いたしました。

グリー株式会社との協業2タイトル「AKB48ステージファイター」、「NARUTO -ナルト- 忍マスターズ」につきましては、グリー株式会社のタイトルとして「GREE」の中で提供されており、当社グループはグリー株式会社から分配される収益を売上として計上しております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は3,126,401千円、セグメント利益は514,593千円となりました。

#### <ライフスタイルサポート事業>

ライフスタイルサポート事業では、日々のサイトの改善、プロモーション活動などにより順調に利用者を増やし、引越し比較サイト（「引越し侍」）、車査定・車買取サイト（「ナビクル」）は同業他社との競合が激化する中、依然業界トップクラスのシェアを維持しております。平成26年4月に予定されている消費税増税前の駆け込み需要を背景に、新車販売台数の拡大に伴う中古車買取需要が大幅に増加し、「ナビクル」が過去最高の売上を達成するなど、ライフスタイルサポート事業総じて売上・利益拡大となりました。

引越し比較サイトは継続してインターネット回線の紹介サービスなど引越しに関連する周辺サービスの売上も伸ばしております。車査定・車買取サイトにつきましては、引き続き「ナビクル」へのブランディング統一、ウェブ集客や収益性の改善に注力し、利用者、売上ともに順調に拡大しております。「すぐ婚navi」を中心としたブライダル事業は、引き続きパーティープロデュース事業「merci」（メルシィ）等のブライダル周辺サービスを順次拡充するとともに、更なるサービス品質向上に取り組んでおります。

さらに、ライフスタイルサポート事業ではこれまでに蓄積した比較サイト運営のノウハウを活かし、新たな事業領域での比較サービスとして、キャッシング・カードローン総合検索サイト「ナビナビキャッシング」を開始いたしました。「ナビナビキャッシング」は平成25年10月に分社化された100%子会社「株式会社エイチームライフスタイル」が運営を推進してまいります。

また、新たにEC事業にチャレンジし、自転車通販サイト「cyma-サイマー-」を開始いたしました。「cyma-サイマー-」は当社で運営を推進してまいります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は2,664,099千円、セグメント利益は327,355千円となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### ① 資産

当第2四半期連結会計期間末における総資産は4,838,571千円となり、前連結会計年度に比べ196,815千円増加いたしました。これは主に現金及び預金の減少310,778千円があったものの、投資有価証券の増加467,423千円によるものであります。

### ② 負債

当第2四半期連結会計期間末における負債は1,134,559千円となり、前連結会計年度に比べ1,607千円減少いたしました。これは主に未払金の増加307,853千円があったものの、未払法人税等の減少329,778千円によるものであります。

### ③ 純資産

当第2四半期連結会計期間末における純資産は3,704,011千円となり、前連結会計年度に比べ198,423千円増加いたしました。これは主に利益剰余金の増加170,416千円によるものであります。

### ④ キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ444,443千円減少し、当第2四半期連結会計期間末には1,796,333千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

#### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において営業活動の結果得られた資金は254,341千円となりました。これは主に、法人税等の支払額489,765千円があったものの、税金等調整前四半期純利益458,717千円の計上及び未払金が308,304千円増加したことによるものであります。

#### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において投資活動の結果使用した資金は620,430千円となりました。これは主に、投資有価証券の取得による支出481,050千円があったことによるものであります。

#### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において財務活動の結果使用した資金は89,919千円となりました。これは主に、配当金の支払額94,991千円があったことによるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

「エンターテインメント事業」におきましては、引き続きグローバル向けタイトルの「レギオンウォー (War of Legions)」及び「ダークサマナー (Dark Summoner)」やグリー株式会社との協業タイトルに加え、国内向けタイトルの「ダービーインパクト」、「麻雀 雷神 -Rising-」が売上に寄与いたします。

「レギオンウォー (War of Legions)」につきましては、月商1億円規模に成長し、第2四半期までの進捗は予定通り安定的に推移したものの、足元の進捗から推測して、第3四半期以降はさらに飛躍的に伸びると想定した当初の計画より低い水準で推移することが予測されます。また、平成25年6月28日にApp Store、Google Playで日本語版と英語版を同時リリースしたスマートフォン向け本格3DダンジョンRPG「ダークラビリンス (Dark Rebirth)」が当初の予想を大きく下回る見通しとなりました。

第3四半期以降におきましては、スマートフォン向け新規タイトルのリリースを計画しており、引き続き国内外でのヒットを狙います。また、既存タイトルのグローバル向け多言語展開も継続して積極的に推進してまいります。このようにエンターテインメント事業では既存タイトルを着実に運営しながら、積極的に海外市場にチャレンジし、新規タイトルも投入することで大きな成長を目指します。

さらに、平成26年1月23日に「当社とNHNエンターテインメントによる合弁会社の設立手続き完了のお知らせ」でお知らせいたしましたとおり、NHN Entertainment Corporation (本社：韓国) との合弁会社である株式会社Ateam NHN Entertainmentにおいては、メッセージングプラットフォーム向けタイトルの企画・開発を進めており、当連結会計年度に新規タイトルをリリースすることを目標に取り組んでまいります。これらの新規タイトルにつきましては、現時点で想定可能な費用を計上しております。

しかしながら、新規タイトルに関しましては、国内外ともに売上进行を予測することが難しいことや、事前に予測不可能な内外的要因によるリリースの遅延など様々な不確定要素により、信憑性の高い業績予想値を算出することは極めて困難であります。そのため、新規タイトルの売上貢献は通期連結業績見直しには見込んでおりません。

「ライフスタイルサポート事業」におきましては、3つの主力サービスである、引越し比較サイト（「引越し侍」）、車査定・車買取サイト（「ナビクル」）、結婚式場情報サイト（「すぐ婚navi」）に力を入れてまいります。引越し比較サイトは引越し繁忙期に向けてサービスの最大化に注力してまいります。車査定・車買取サイトでは引き続きシェアを拡大することを目指し、ユーザビリティやカスタマーサポートの整備、強化を図ってまいります。「すぐ婚navi」は今後も全国への展開を目指してBrides Desk（ブライズデスク）を増設し、海外ウエディングや二次会を中心とするパーティープロデュース事業「merci」（メルシィ）等のブライダル周辺事業も強化し、サービス品質を向上することで引き続き大きな成長を狙います。新規サービスであるキャッシング・カードローン総合検索サイト「ナビナビキャッシング」及び自転車通販サイト「cyma-サイマー」はサービスの充実に取り組み、ユーザー獲得やブランディングに注力してまいります。

このように、エンターテインメント事業の既存タイトルは通期連結業績予想を下回る見通しとなり、一方ライフスタイルサポート事業は計画を上回る見通しであります。エンターテインメント事業の新規タイトルの売上貢献を見込まないことを前提にした場合、ライフスタイルサポート事業による計画超過分ではエンターテインメント事業の当初計画から乖離する部分を十分に補えないものと判断いたしました。

以上を踏まえた平成26年7月期の連結業績予想につきましては、本日発表いたしました「平成26年7月期連結業績予想の修正に関するお知らせ」のとおり修正いたしました。上記の将来に対する記述、連結業績予想数値は本資料発表日現在において当社が入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因により変動する可能性があります。

エンターテインメント事業においては、グローバル化が進む中、急速に変化するマーケット及びリリース前の新規タイトルは不確実性が高いため、業績が大きく乖離する可能性があります。

ライフスタイルサポート事業においては、単年度の利益よりも一定のシェアを確保することを重視する点及び競合サービスとの競争激化も勘案し、緩やかな成長を見込んでおります。新規サービスに関しましては軌道に乗るまでの初期投資も必要不可欠となる一方、エンターテインメント事業と異なり、成長は緩やかであるものの、サービスが軌道に乗り安心して使って頂けるブランドになれば安定的且つ継続的な収益向上が期待できます。

平成26年7月期 通期業績見通し (平成25年8月1日～平成26年7月31日)

売上高	12,500百万円 (前連結会計年度比13.7%増)
営業利益	1,500百万円 (前連結会計年度比12.6%減)
経常利益	1,500百万円 (前連結会計年度比12.7%減)
当期純利益	883百万円 (前連結会計年度比15.2%減)

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

### 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

なお、当社は、第1四半期連結会計期間において、株式会社引越し侍、株式会社A.T. サポート及び株式会社エイチームライフスタイルを新規設立し、これらの会社すべてを連結子会社にしております。

また、当第2四半期連結会計期間において、当社は、NHN Entertainment Corporation（本社：韓国）と、両社の強みを活かし、メッセージングプラットフォーム向けのタイトルを、日本市場、韓国市場を含む全世界市場に共同で展開することを目的とし、合併会社として株式会社 Ateam NHN Entertainmentを新規設立し、同社を持分法適用会社にしております。

この結果、平成26年1月31日現在では、当社グループは、当社、子会社4社及び関連会社1社により構成されることとなりました。



## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年7月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,944,256	1,633,477
売掛金	1,232,862	1,410,475
有価証券	296,520	162,856
たな卸資産	780	17,039
その他	332,263	301,221
貸倒引当金	△45,930	△31,886
流動資産合計	3,760,753	3,493,184
固定資産		
有形固定資産	102,885	118,386
無形固定資産	410,184	358,111
投資その他の資産		
投資有価証券	—	467,423
敷金及び保証金	312,970	339,111
その他	57,532	64,021
貸倒引当金	△2,571	△1,668
投資その他の資産合計	367,931	868,888
固定資産合計	881,002	1,345,386
資産合計	4,641,755	4,838,571
負債の部		
流動負債		
買掛金	68,069	39,899
未払金	477,406	785,259
未払法人税等	509,241	179,463
販売促進引当金	—	15,858
その他	81,449	114,078
流動負債合計	1,136,167	1,134,559
負債合計	1,136,167	1,134,559
純資産の部		
株主資本		
資本金	523,724	526,260
資本剰余金	497,524	500,060
利益剰余金	2,479,138	2,649,555
株主資本合計	3,500,388	3,675,877
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	—	△8,265
その他の包括利益累計額合計	—	△8,265
新株予約権	5,200	36,400
純資産合計	3,505,588	3,704,011
負債純資産合計	4,641,755	4,838,571

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位:千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年8月1日 至 平成26年1月31日)
売上高	5,790,501
売上原価	1,167,761
売上総利益	4,622,739
販売費及び一般管理費	4,142,169
営業利益	480,569
営業外収益	
受取利息	317
為替差益	11,022
その他	2,047
営業外収益合計	13,386
営業外費用	
支払利息	192
固定資産除却損	541
持分法による投資損失	845
その他	22
営業外費用合計	1,601
経常利益	492,354
特別損失	
減損損失	33,637
特別損失合計	33,637
税金等調整前四半期純利益	458,717
法人税等	192,325
少数株主損益調整前四半期純利益	266,391
四半期純利益	266,391

## 四半期連結包括利益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位:千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年8月1日 至 平成26年1月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	266,391
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	△8,265
その他の包括利益合計	△8,265
四半期包括利益	258,126
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	258,126

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年8月1日 至 平成26年1月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	458,717
減価償却費	98,017
減損損失	33,637
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△14,946
受取利息及び受取配当金	△319
支払利息	192
売上債権の増減額 (△は増加)	△177,612
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△16,258
仕入債務の増減額 (△は減少)	△14,053
未払金の増減額 (△は減少)	308,304
その他	68,301
小計	743,980
利息及び配当金の受取額	319
利息の支払額	△192
法人税等の支払額	△489,765
営業活動によるキャッシュ・フロー	254,341
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△32,440
無形固定資産の取得による支出	△78,735
投資有価証券の取得による支出	△481,050
その他	△28,204
投資活動によるキャッシュ・フロー	△620,430
財務活動によるキャッシュ・フロー	
株式の発行による収入	5,072
配当金の支払額	△94,991
財務活動によるキャッシュ・フロー	△89,919
現金及び現金同等物に係る換算差額	11,566
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△444,443
現金及び現金同等物の期首残高	2,240,777
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,796,333

## (4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

## (5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

## (6) セグメント情報等

## 【セグメント情報】

当第2四半期連結累計期間（自 平成25年8月1日 至 平成26年1月31日）

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	エンターテイン メント事業	ライフスタイル サポート事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,126,401	2,664,099	5,790,501	—	5,790,501
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	—	—	—
計	3,126,401	2,664,099	5,790,501	—	5,790,501
セグメント利益	514,593	327,355	841,949	△361,379	480,569

(注) 1. セグメント利益の調整額△361,379千円は、報告セグメントに帰属しない全社費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 第1四半期連結会計期間より、従来の「ライフサポート事業」について「ライフスタイルサポート事業」へ名称を変更いたしました。なお、当該変更は、名称変更のみであり、報告セグメントの区分の方法に変更はありません。

## 2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「エンターテインメント事業」セグメントにおいて、当社が保有している固定資産のうち、その収益性が低下しているものについて、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては31,791千円であります。

また、「ライフスタイルサポート事業」セグメントにおいて、連結子会社が保有している固定資産のうち、事務所移転に伴い除却することになったものについて、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては1,845千円であります。

## (7) 重要な後発事象

該当事項はありません。